HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	高齢者介護組織の経営［論文内容及び審査の要旨］
Author(s)	深山, 誠也
Degree Grantor	北海道大学
Degree Name	博士(経営学)
Dissertation Number	甲第11644号
Issue Date	2015-03-25
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/59376
Rights(URL)	https://creativecommons.org/licenses/by-nc-sa/2.1/jp/
Type	doctoral thesis
File Information	Seiya_Fukayama_abstract.pdf, 論文内容の要旨



Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

学位論文内容の要旨

博士の専攻分野の名称：博士（経営学）　　氏名：深山誠也

学位論文題名

高齢者介護組織の経営

本研究は，わが国の高齢者介護組織すなわち，高齢者介護サービスを提供する社会福祉法人を対象とする実証研究を通じて，高齢者介護組織に有効な経営方法を解明し，高齢者介護組織のマネジメントに関する理論構築を目的とするものである。

具体的には，次の 2 つの研究課題が設定された。第 1 に，高齢者介護組織には，有効な経営を行うためのいかなる特徴があるのか。第 2 に，高齢者介護組織において有効な経営を行うための特徴が，なぜおよびどのように形成されるのか。

高齢者介護組織では，ハイ・コンタクトで，身体的かつ心理的なヒューマン・サービスが提供される。さらに，高齢者介護組織には，法制度や社会からその取り組みについて制約を受けるという特徴がある。今日，高齢化の進展や介護保険制度の導入に伴い，高齢者介護組織は有効な経営方法を求められるようになった。しかしながら，高齢者介護組織の経営については，従来の研究では組織レベルで包括的に解明されてはこなかった。本研究では，従来の研究の間隙を埋めるため，高齢者介護組織の経営について，理論的・実証的研究を試みた。

本研究は 6 つの章で構成される。以下，各章の要約を行う。

第 1 章では，本研究の目的と背景を説明した。

第 2 章では，先行研究の検討を行った。第 1 に，わが国の高齢者介護組織の経営に関する先行研究を検討し，従来の研究では組織レベルの包括的な分析がなされていないことを提示した。第 2 に，有効な経営の特徴に関わる，組織レベルの包括的な分析に関する経営学の先行研究を検討し，高齢者介護組織について環境―競争戦略―組織特性―資源―組織成果の関係に注目する必要があることを提示した。第 3 に，有効な経営の特徴に関わる形成プロセス，すなわち高齢者介護組織における組織レベルの包括的な分析で注目される要素がいかにして変化するのかについて，組織変革論の先行研究を整理し，その限界について検討した。これらの先行研究の検討に基づき，理論的枠組が提示された。そして，この理論的枠組に基づき実証研究を行うための研究方法が提示された。

第 3 章では，高齢者介護組織を対象とするサーベイデータの定量的分析を試みる。具体的には，北海道を拠点に高齢者介護サービスを提供している 298 の社会福祉法人のサーベイデータに多変量解析を適用して，第 2 章の先行研究の結果，導出された仮説の検証を行う。さらに，高齢者介護組織における有効な戦略類型とその特徴の析出を試みる。定量的分析の結果，高齢者介護組織における環境―競争戦略―組織特性―組織成果間の相互関係を明らかにした。具体的には，次の 4 点を明らかにした。(1) 高齢者介護組織において，有効な 3 つの戦略類型（コ

スト志向型，差別化志向型，差別化・コスト併用型）が存在する。(2) 環境不確実性の認知が異なる場合，採用される戦略類型は異なる。(3) 戦略類型が異なる場合，採用される組織特性は異なる。(4) 同一戦略類型内における組織成果を規定する環境と組織特性の組み合わせは，戦略類型間で異なる。

第 4 章では，第 3 章にて析出された有効な戦略類型の 1 つである差別化志向型に該当する高齢者介護組織である社会福祉法人北海長正会を対象とする事例分析を試みることにより，有効な戦略類型を採用する高齢者介護組織における特徴がなぜおよびどのようにして形成されたのかについて，そのプロセスを具体的に解明する。差別化志向型を採用する高齢者介護組織についての事例分析の結果，主に次の点が明らかになった。(1) 差別化志向型を採用する高齢者介護組織において，環境，競争戦略，組織特性，資源の相互の結び付きが，組織成果を規定する。(2) トップ・マネジャーのイニシアティブにより価値基準が生成され，ミドル・マネジャーと現場職員のイニシアティブにより具体的な活動が生成されることによって，差別化志向型は形成された。(3) 差別化志向型を採用する高齢者介護組織における組織特性に関する活動は，ミドル・マネジャーと現場職員のイニシアティブによって生成された。(4) 差別化志向型を採用する高齢者介護組織における戦略形成と組織形成は，環境と資源の状況によって促進または阻害された。

第 5 章では，第 3 章の定量的分析および第 4 章の事例分析の結果に基づき，有効な戦略類型の特徴およびその形成プロセスについてディスカッションを行った。

第 6 章では，本研究で析出された分析結果に基づき，高齢者介護組織の経営に関する 30 の命題を導出した。これら 30 の命題は，(1) 高齢者介護組織における有効な戦略類型とその特徴に関する 18 の命題と，(2) 有効な戦略類型を採用する高齢者介護組織における戦略形成と組織形成のプロセスに関する 12 の命題の 2 つに区分される。最後に本研究の意義および今後の課題に言及する。